

(5) 調査結果から

ア 調査した件数

モニターの皆さんが調査した商品は、全部で1,057個でした。

その内訳を包装形態別で見ると、密封商品が467個(44.2%)、面前計量商品・パック商品は590個(55.8%)という結果でした。

分類別に見ると、密封商品では調理食品類が129個(27.6%)で最も多く、次いで野菜類が112個(24.0%)の順でした。面前計量・パック商品では食肉類が291個(49.3%)、魚介類が100個(17.0%)の順でした。

イ 過不足の結果

今回の調査件数を過不足で見ると、調査した全商品(1,057個)のうち、内容量が正量であったものは全体の84.6%という結果でした。

また、内容量が量目公差の範囲を超えて不足していたもの(以下、「不足」といいます。)は全体の7.0%を占め、内容量が表記量を大きく上回っていた過量のもの(以下、「過量」といいます。)は全体の8.4%という結果でした。

ウ 包装形態別の過不足の結果

・密封商品

調査した密封商品(467個)のうち、内容量が正量であったものは402個で86.1%、不足は14個で3.0%、過量は51個で10.9%でした。

・面前計量商品・パック商品

調査した面前計量商品・パック商品(590個)のうち、内容量が正量であったものは492個で83.4%、不足は60個で10.2%、過量は38個で6.4%でした。

・包装形態別の過不足の比較

包装形態別の過不足を比較すると、不足では、面前計量商品・パック商品が密封商品に比べてその割合が高く、過量では反対に密封商品の割合が高いという結果でした。